厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究
分担研究報告書

潰瘍性大腸炎（UC）手帳の改訂

研究協力者　飯塚文瑛　東京女子医科大学消化器内科　準講師

研究要旨：平成23年度に厚労省渡辺班で作成した本資材は、日常診療における効率の良い情報収取資材として広く使用されている。今回は４年の経過で変化した下記項目の記述変更、追加について改訂を検討した。主に１）登録患者数、２）内科治療指針改訂に伴う変化、３）妊娠・出産・授乳における薬剤の安全性について。４）大腸がんや異形成粘膜検索のための内視鏡の頻度　などであった。

共同研究者
国崎玲子（横浜市大炎症性腸疾患センター）
長堀正和（東京医科歯科大学　）
長沼　誠（慶応大学）
樋田信幸（兵庫医科大学）
新井勝大（国立成育医療センター）
鈴木康夫（東邦大学佐倉病院）

A．研究目的

潰瘍性大腸炎の診療において、病状日誌手帳（本資材）は下記の点等で臨床的・社会的に有用である。１.重症度判定 2.治療への反応性 3.再燃要素を探る、などの病状把握が瞬時に可能で、日々病状が変化する重症・中等症の真の病状把握も容易で、外来診療の診療時間の短縮にもつながる。全国共通の治療試験が自主研究の元資料として残る。今後も広く使用されるべき有用な資材であるため、作成年度からの時間経過で変化した共通認識部分を刷新し現状に見合った手帳に改訂することを目的とした。

B．研究方法

前回作成の手帳に基づき、研究者各個人の気づきをあげ、討論した。

（倫理面への配慮）

患者対処研究ではなく、倫理的問題なし。

C．研究結果

1．登録患者数　2．内科治療指針、3.妊娠出産・授乳における薬剤の安全性、4.大腸がんや異形成粘膜検索のための内視鏡検査の頻度、5.レイアウト、その他について、現状に見合った記述変更をし、これらに基づき、手帳の原盤を作成し直し、校正し、印刷とする。

D．考察

以下の討論があった。この資材の活用方法として若手医師や非専門の診療指導に用いて適正診療を広めていくことが可能である。持ち歩き用の紙資材として定着していてそれを変更しないが、病状日誌部分の資材原版をネット上に上げて自由印刷を可能とする事を併用する案も検討に値する。病状日記部分は普遍的で変更不要であるが、治療方法の記述などは治療指針にそった改訂が今後とも定期的に必要となる。治療方針がネット上で随時治療者も被治療者も見られるようにする事も検討に値する。

E．結論

臨床的・社会的に有用な本資材をさらに活

用しるために現状に即した改訂をした。

F．健康危険情報：なし

G．研究発表：

１.論文発表なし

２.学会発表なし。

H．知的財産権の出願・登録状況

１．特許取得なし。

２．実用新案登録なし。

３．その他なし。